

2009年2月15日 講義7

講義タイトル：The State of Old People in Ethiopia & Mainstreaming their Concerns into Key National Policies 講師：Meseret Bihonegn

キーワード：elderly, health policies

要約

エチオピアにおける高齢化率は4%、約300万人で、そのうち16%が都市部に、84%が農村部に生活している。エチオピアにおける高齢者ケアを取り巻くシステムについては、三つに分類できる。

① 政府レベルの医療政策

・元公務員に対しては年金制度があり、医療費も無料になる。しかし公務員比率は高齢者のうちの10%弱である。

・高齢者施設はエチオピア国内に3つある。低所得者、身よりのない人が対象である。アジスアベバ (Addis ababa) に83人、デブレリバノス (Debre Libanos) に200人、ハラール (Harar) に52人で合計335人が利用している。これは十分カバーできる数ではなく、質についても必要最低限である。

② NGO レベルのケア

・デイケア・センター：高齢者向けのリハビリトレーニングを受けた専門職員がスタッフとして常駐。

・在宅ケア・サービス：訪問看護によりリハビリ等が実施。

・支援団体：高齢者の利益を守るための組織。

ただし、NGOは少数であり、しかもケアの対象は都市の高齢者に限られる。

③ 拡大家族 (3世帯家族)

政府、NGOよりも多様なケアが提供できるが、HIV/AIDS 国内感染率の上昇、経済事情の悪化で家族の責任も果たせなくなりつつある。

(報告者：笠原順子)

〈私見〉

農村部に住む高齢者が国全体の8割強に及ぶにも関わらず、講義内ではそこでのケアの実践が提示されず、高齢者の地域での暮らしの様態がわからなかった。現実を観察していない私が単純に思いつく現状介入は、まず、地域在住高齢者がそこでどのように暮らし、どのようなニーズをもっているのか政府レベルで把握することである。次に既存の政府ベースの養護施設、NGO、家族ケアのそれぞれが無理なくケア役割を均等に担えるようなケアモデルを見出すことである。そして、高齢化率4%の今のうちからケアの担い手を育てておくことも重要である。これら私見は資金が絡むので一筋縄ではいかないと思うが、既に高齢者に対するケア意識をしっかりと持つエチオピアにアフリカの高齢者ケアをリードする役割を期待する。